

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



緑の地球環境センターのトウヒ。昨年春いそいで移植したが、しっかり活着している。

### Contents

- 緑の地球ネットワーク第18回会員総会のご案内 … P2
- 2011年度緑色中国焦点人物国際貢献賞受賞 …… P3
- 春のワーキングツアーグラフィティ …………… P4
- 夏の黄土高原スタディツアー参加者募集 …………… P5

2012.5

145

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



## 緑の地球ネットワーク 第18回会員総会のご案内

緑の地球ネットワークは、20年間、中国黄土高原での緑化協力をつづけてきました。ただ木を植えるだけでなく、どのように、どこに植えたいか、よりよい苗を作るにはどうしたらいいか、限られた自然条件や社会条件の中で試行錯誤をくりかえし、それなりの成果をあげてきました。さらに、それを地域に定着させ、ひろげていくために、緑の地球環境センターで新しい試みもおこなっています。

昨年3月の東日本大震災で、東北の海岸林は大きく傷つきました。津波で破壊された海岸地域の復興は容易なことではありません。新しい堤防が必要な場所もあるでしょう。けれど、海岸林の再生がのぞましいところもあるはずで、炭や菌根菌をつかって大同で緑化をすすめてきた GEN の経験を、日

本の東北で生かすことはできないでしょうか？

今回記念講演をしていただく小川眞さんは、震災前から陸前高田や閑上でマツ林の保全に取り組み、すでに東北で採取したマツの種から育苗をはじめておられます。GEN の大同での緑化協力では菌根菌利用の育苗や、炭および炭堆肥の農林業への活用実験などを指導していただいています。大同と日本の東北、国境を超えて GEN の経験を生かせるなら協力したいところです。

もちろん問題は山積です。まず現状を知り、なにができるか考えませんか。記念講演で東北の海岸林の現状を、会員総会では動きはじめた緑の地球環境センターの状況などをご覧ください、考える材料にさせていただく機会です。

【緑の地球ネットワーク

第18回会員総会】

●日時：6月16日（土）13時30分～16時40分

○記念講演：13時30分～15時

『被災地における海岸林再生に中国での経験が生かせるか？』

◇講師：小川眞さん（大阪工業大学客員教授、白砂青松再生の会会長、日本バイオ炭普及会会長、GEN 顧問。近著に『キノコの教え』岩波新書）

◇参加費：700円（会員無料）

○会員総会：15時20分～16時40分

●場所：大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室（大阪市北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5階 Tel.06-6345-5000 JR「大阪」駅／「北新地」駅、各線「梅田」駅下車）

○総会終了後に懇親会を行ないます。

◇会場：Dining Bar トップサーティー

◇参加費：4,200円

◇申込み：6月8日までに GEN 事務所まで。会員以外でもご参加いただけます。

大同における20周年の記念イベントを、8月19日からの緑の地球ネットワークの協力団が大同を訪れる機会に、この緑の地球環境センターで開催することにしています。ぜひ多くの方々が、この貴重な機会に立ち会ってくださるようお願いいたします。

緑の地球環境センター付近の Google earth の画像が2011年10月3日のものに更新され、センターの外観をみることができるようになりました。北緯40°07'45"、東経113°24'55"にあるのが管理棟です。一見して新しい建設とみえるもののうち、東側のおよそ3分の2が私たちのセンターで、西側は長城山林場の苗圃です。



## 報告 緑の地球環境センター建設すすむ

緑の地球環境センターのインフラ整備がほぼ完成に近づきました。大同市から提供された23haの土地は整地が終わり、育苗や見本園などに活用されています。幅員5～8mの道路を南北・東西方向に各5本つくり、ジャリなどをいれて硬化しました。合計で4,900mほどになりますが、それには小さな作業道は加えていません。井戸を2本掘り、1時間あたり90m<sup>3</sup>の水を確保できました。敷地の全体を灌漑できるよう、配水管を埋設しています。事務室、会議室、食堂・厨房、トイレ、シャワー、倉庫、作業員宿舎などを備えた管理棟も完成しました。これまでの拠点運営の経験をいかして統一的に計画したので、旧・環境林センターよりは、ずっと使いやすくなっています。

わずか1年間で、よくぞここまでをなす遂げたものです。かたちになった成果ももちろん大事ですが、それをやり抜いた大同事務所やセンターのスタッフの経験と能力の蓄積は、こ

れからの私たちの活動の宝だと思えます。

白登苗圃と実験果樹園から移植した苗木も95%以上が活着し、青い葉を広げています。現地の山地緑化に使用するための大量のマツ苗も菌根菌を活用して育てています。今春も小川眞顧問など日本の専門家が現地にてかけて指導しました。

前中久行代表の設計で、生態植林見本園と有用植物見本園（薬草を含む）の建設も本格化しました。敷地中央からちょっと西によったところに、2haの土地を確保しており、昨秋と今春で、およそ3分の2の面積に60種近い樹木を植えました。有用植物見本園には、大同市内の各地から集めた薬草などのほかに、薬材市場として有名な河北省安国市からも苗・球根・種子を集めてきました。どちらもこの9月には基本的な部分の建設が終了します。

## 2011年度緑色中国焦点人物 国際貢献賞を受賞

中国の全国緑化委員会、国家林業局、中国緑化基金会、生態文明研究と促進会が主催する「2011年度緑色中国焦点人物」コンテストに高見邦雄事務局長がノミネートされ、3月1日から4月15日までのインターネット投票で25万3,000票あまりをえて、国際貢献賞を受賞しました。

4月22日のアースデーに北京で開催されたイベントに高見事務局長も出席し、「満20年という節目の年にすてきな賞を受けることができうれしい。この賞がさらに多くの助けを呼び寄せてくれることを期待する」と挨拶しました。そのまえには、緑の地球ネット

ワークが継続してきた緑化協力がスライドをつかって紹介されました。司会者も、たいへん感動的だった、と評価しました。

150分にわたる授賞イベントは人民網（人民日報のネット版）で実況中継され、また衛星テレビ4局が放映し、全国100のメディアで報道されました。他の受賞者は、中央・地方の政府指導者、知識人、有名なキャスター、俳優、書家、企業人、環境NGO関係者などです。そのアーカイブをつぎのところでみることができます。http://tv.people.com.cn/GB/43911/17699191.html 国際貢献賞の場面は、1時間27分45

秒から7分間です。20年間継続してきた私たちの活動が、すでに多くの中国人に知られていることがわかり、そしてさらに多くの人びとに印象づけられた貴重な機会だったと思います。



緑色中国雑誌社記者 耿国彪撮影

## いますぐできるGENへの協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会員	12,000円
家族会員（同居の家族2人目から）	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円
※会費は会報購読料を含んでいます。	

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。GENへの寄付は、寄付控除の対象となります。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。  
\*緑化基金の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

■外国コイン・商品券など回収中

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは国税庁長官に認定された認定NPO法人です。（期限は2014年5月31日まで）。

GENへの寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは2,000円以上の寄付金で、確定申告

が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損算入限度額とは別枠の損算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

切手、ハガキ、コイン等の報告

2011年度にみなさんから提供していただいた物品でのご寄付は合計650,724円となりました。ありがとうございました。内訳は、未使用切手が564,609円、書き損じハガキを切手・郵便書簡に交換して54,480円、使用済み切手・外国コイン・外国紙幣等を換金して31,635円です。

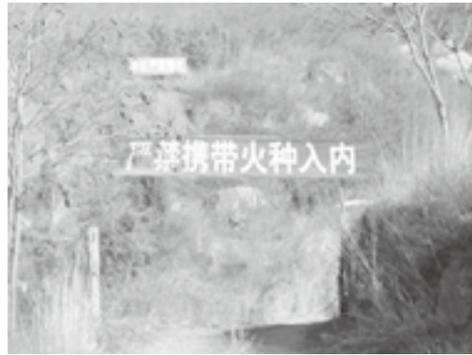
切手等は通信に、現金化したものは緑化基金に使わせていただきます。引き続きご協力をお願いします。



報告

# 春のワーキングツアー

今年の春はGENツアーほか4つの団が大同を訪問し、緑化活動に参加しました。4/7～4/13のGENワーキングツアー（14名）から始まり、4/13～4/20東北電力総連（23名）、4/14～4/19イオン・サントリー労働組合ツアー（27名）、4/19～4/25専門家派遣（6名）と続きました。4月7日から13日までのGEN春の黄土高原ワーキングツアーは、参加者は14名と少なかったのですが、そのぶんゆとりをもってじっくり大同を見ることができました。写真を中心にご覧いただきましょう。



発がすすみ、駐車場や公園ができています（写真は隣村、下北泉村の公園。トピアリがオシャレ）。



（写真左）まずは霊丘県の南天門自然植物園へ。植物展示区の植栽をおこないました。清明節前後のこの時期、一番こわいのが山火事。どこの林場も入口に横断幕をかかげ、火気厳禁を訴えていました。

（写真右）ツアーでよく訪れる上北泉村。観光開

（写真左）上北泉村では、花も美しく実もおいしい大久保というモモを植えました。驚いたのは小学校が廃校になっていたこと。郷の中心の学校に統合されてしまったのです。子どもたちがいないときびしいですね。果樹園のアンズのつぼみは固かったのですが、公園のアンズはちらほら咲き始めていました。渾源县呉城郷のアンズはまだまだ。開花がおそいのは、霜・凍害にあう危険が少なくなるのでいいことなのです。



（写真右）呉城郷の小・中学校で子どもたちと交流しました。



（写真左）年々大きくなる采涼山のマツ。

（写真右）緑の地球環境センターは急いで作業をしてきたので、あちこちでちょこっと植えなおしたり、修正をしました。地元の作業員が従事しているのはマツの小苗の掘出し。冬のあいだ土に守られ



ていた苗が、何か月ぶりに太陽の光をあびていました。



報告

# 16年ぶりの大同で感じたこと

瀬戸井 初恵（イオンリテールワーカーズユニオン）

4/13～19（前泊含む）の7日間、イオンリテールワーカーズユニオン14名、サントリー労働組合13名・総勢27名の合同ツアーに参加しました。お互いのことを知る（参加者同士・会社・組合のこと、ツアーのこと）、GENの活動・中国のことを知ることをテーマとし、グループ・個人それぞれがツアーの獲得目標を決めツアーにのぞみました。私は、16年前に参加しているの、2回目の参加になります。

「大同市内は、すごいスピードで開発が進んでいるのでびっくりするよ」とこれまでの参加者から聞いていましたが、実際に見た整備された道路、高層マンション等、目をみはるものばかりでした。

今回は、16年前に植えたあんずの木々に会えるということもあり、私は飛行機に乗った時から胸の高鳴りがと

まりませんでした。まるでなれて暮らす子どもに会えるような気持ちです。実際に会った子どもたちは、ピンクの可愛いつぼみをつけていました。高見さんが、今年は開花が遅れているんだよと教えてくれました。花を見ることができず、残念でしたが、会うことができなよりの幸せでした。

「緑の地球環境センター」では、東北電力総連の皆さんと協力して1,666本の植樹をすることができました。穴を掘る人、苗を運ぶ人、苗を植える人、全員が同じ目標に向かって協力したから成し遂げることができたのだと思います。達成感を味わうことができました。

ツアーの中で高見さんがおっしゃった「緑化の大切なポイントは3割が植樹、7割が管理」というお話しがとても印象に残っています。私たちが、植樹の協力をできるのは、ほんの数時間です。

たしかに植樹をしたあとの管理をしていかないと苗が育ちません。木に林にそして森になることはできません。高見さんをはじめ、現地の皆さんの日々の活動があるからこそ、黄土高原にも、緑が増えてきているのだとあらためて頭がさがる思いです。

ツアーを通して、気づいたこと、そして一人ひとりが決意したことを地道に行動していきたいと考えます。



報告

# 「継続は力なり」を実感

田上 卓優（サントリー労働組合）

イオンリテールワーカーズユニオンとサントリー労働組合共催による第5回のツアーは、4月14日～19日に実施されました。

私自身初めての参加で、GENの活動を直接肌身で感じられる本当に貴重な体験をさせていただきました。一番印象に残っているのは、「継続は力なり」ということ。聞きなれた言葉ではありますが、まさにGENの活動そのものだと実感しました。

中国の広大な大地を初めて目の当たりにして、山に緑がすくないことを実感しました。しかしカササギの森を見学したときには、他の山とはちがう緑があることに大変感動しました。そこまでの道のりには数え切れない苦労があったことをうかがい、そのとき、高見さんが「失敗はすぐに分かるけど、成功を確認するには何十年もかかる」

と言われたのがずっと心に残っています。成功を確認し実感するための道のりこそが「継続は力なり」なんだと感じました。

我々が植えた木々が成長するためには、ぜひともこのツアーを継続させ、たくさんの人達に参加してもらうことが必要だと思います。そのための努力こそが我々のできる「継続は力なり」だと考えています。

今回のツアーでお世話になったすべての人に謝辞。

## 助成金が決まりました

公益信託経団連自然保護基金の2012年度支援事業として緑の地球ネットワークの「多様性のある森林再生事業第5期」に340万円の助成金が決まりました。緑の地球環境センターの育苗に生かされます。

## 『菌根菌と木炭を緑化に生かす』DVDとパンフレット作りしました

小川眞先生をはじめとする専門家の大同での実験・成果をまとめたDVDとパンフレット『菌根菌と木炭を緑化に生かす』を作成しました。

ご希望の方に配布しています。ほしい方はGEN事務所までご連絡ください。



参加者募集 夏の黄土高原スタディツアー & 20周年記念イベントのご案内

GENが大同で緑化活動をはじめて20年。この節目に夏のスタディツアー開催にあわせて大同で記念のイベントを行ないます。続けてきた緑化協力の歩みを現地を感じることもできる貴重な機会です。ほかに色あざやかな花々と李向東園長があたたかく迎えてくれる南天門自然植物園、新しく建設のすすむ緑の地球環境センターでの活動など盛りだくさんのツアーです。○日程：8月19日(土)～25日(日) ○費用：170,000円(国際航空運賃、中国国内の交通費/宿泊費/食費を含む。年会費(一般=12,000円、学生=3,000円)、燃油特別付加運賃、空港使用料、旅券取

得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含まない) ※関西空港発着。中国国際航空利用。 ※羽田 便利用希望の方はご相談ください。 ○訪問先：中国山西省大同市(北京経由) ○定員：35名程度 ○最少催行人数：12名 ○申込み締切：7月5日(木)(先着順) ☆参加ご希望の方は、まずGEN事務所までご連絡ください。申込み書類の準備ができましたら、(株)マイチケットからお送りします。

参加者募集 関東ランチ宇久須宿舎オープン

Fax. 03-3985-4790 E-mail: ueda@rikkyo.ac.jp 緑の地球ネットワーク関東ランチ 代表：上田信

西伊豆町には海・山、そして里があります。その地に宿舎を設けました。関東ランチの畑での農作業、山林散策、海水浴・魚釣りの基地としても活用できます。地元の方々との交流もまた、魅力のひとつ。ぜひ、多くの方に利用していただきたいと思います。利用期間：5月～9月末日 料金その他は、上田までお問い合わせください。〒171-8501 豊島区西池袋3-34-1 立教大学文学部 上田研究室

関東ランチ6月月例会

『地域づくりと観光(仮題)』 ○日時：6月30日(土) 15時～18時ごろ ○場所：立教大学池袋キャンパス5号館1階 第1・2会議室 ○話題提供：菅原由美子さん(菅原由美子観光計画研究所主宰・立教大学観光学部兼任講師)

参加者募集 GEN自然と親しむ会

夏と秋に開催する自然と親しむ会のご案内です。去年台風のため中止になった伊吹山も再度企画しました。ぜひお楽しみに。 ○7月29日(日) 伊吹山お花畑での薬草見学会 ○10月28日(日) 八幡河川合流中州で炭作り&バーベキュー

く5時頃にはあらかじめ終了し地域の婦人総出の手づくり料理で歓待をうけ、夜は温泉、民宿での懇親会、と盛りだくさんの一日であった。 次の日もまたまた予報どおりの悪天候、さらには雪まで降りだして地面が一面まっ白になった昼ごろには日程はすべて終了。スリーシーズンはとっくに過ぎたスタッドレスにすがってお尻をふりふり帰路についていたのでした。



報告 箱石浜森林ボランティアに参加して

川島 永子 (GEN会員)

3月24日、25日、京丹後市久美浜町箱石海岸で京丹後市久美浜町箱石区共援組織主催の「森林ボランティア in 箱石」が行なわれ、GENから6名が参加しました。

その日は朝から天気予報どおりあいにくの雨、それでもお昼ごろには小止みになり薄日もさしてきて雨具に長靴のいでたちで受付をすました。このボランティアの目的のひとつが白砂青松の復元ということで、そのことを体験的に知っている我らルートばかりかと思いきや、若い人たちは沢山参加していて、実際、腰痛を心配してこっそりホカロンをしのばせている私とちがって、彼らは倒木を軽々と運んだり雨具の破れや汚れを気にする風もなくせっせと穴掘りをしたり大変なもの仕事っぷりだった。 会場では専門家の先生方から植えか

たや留意点などの説明をうけたが、松の苗木を詰めぎみに植え、成長する過程で松同士を競わせ丈夫な木をつくる。そして間引いた松は正月の松飾りとして売りだすことを計画しているとの話であった。 かって四国の片田舎で紅葉や色づいた柿の葉等を料理のつまとして出荷する事業が成功し、ホクホク顔でパソコンを駆使する高齢のおばあさんをテレビで見たことがあったが、門松事業もうまくいって四国に負けないぐらいうれしそうな顔の人が一杯になればいいなと思った。 作業はこれといって難しいこともな

黄土高原史話<58> 祖母一孫でなく母一子では？

谷口 義介 (GEN 会員)

前回「太后馮氏がお膳立て」を書いていて、これは歴史小説のネタになると見立てたが、案の定、華流ドラマ「北魏馮太后」が2006年に制作されていた。ネットで検索すると、中国版「善徳女王」！中国史上初の女性権力者「馮太后(ふうたいごう)」の波乱に満ちた生涯を描く、大スペクタクル歴史劇。

このキャッチコピーからも、日本で大モテした韓流ドラマの二番煎じが見え見え。ちなみに「善徳女王」とは新羅最初の女王。また「中国史上初の女性権力者」といえば、馮太后よりまえ、漢の高祖劉邦の呂皇后。高祖の没後、一族を次々登用して事実上の呂氏政權を樹立、夫の愛妃の手・足を切り、目・口をつぶし、人ブタと呼んで飼ったというから、何ともすさまじい、恐ろしい。善徳女王も馮太后も、これには真ッ青！それはともかく、中国を代表するスタッフ・キャストが結集。壮大なスケールで描かれた話題作がついに日本上陸！

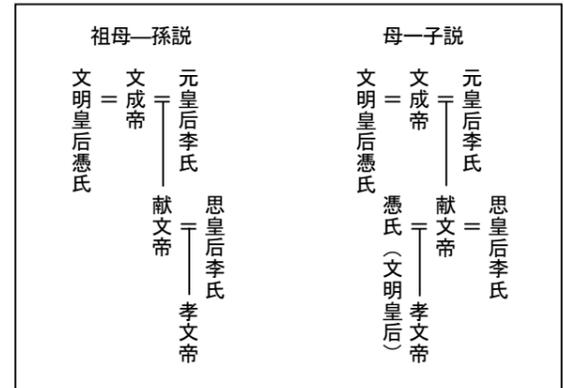
関西では京都テレビが放映したが、あいにく滋賀県北部にある拙宅までは同局の電波は届きません。そこで全42話、1回50分の内容をサイト情報で見ると、定説どおり馮太后と孝文帝を祖母一孫の関係でとらえていて、この点は前回拙文も同じ。しかし、両者は実は母と子だったという説も、以前から存在するのです。

川本芳昭『中華の崩壊と拡大一魏晋南北朝一』(中国の歴史05、講談社、2005年)によると、孝文帝の出生の

本で紹介 『写真ルポルタージュ 3.11大震災・原発災害の記録II 復興への一年』(写真・文/橋本紘二 農山漁村文化協会 1,600円+税) 未曾有の大災害の後、瓦礫の傍らで、それでも人は暮らしていく。お盆の花やお正月の飾り売るトラックや仮設店舗。少しずつ再開される日々の生業。

秘密に関しては当時かなりのウワサになっていた可能性があるという。それは、『魏書』や『北史』が、孝文帝は馮太后の一族を厚遇したのに反し、孝文帝の生母として記述する思皇后李氏の一族に対しては極めて冷淡だった、としている点。また孝文帝は馮太后の死後、本来なら実の父母に対してのみ行うべき「三年の喪」に、群臣の反対を押し切って服そうとした、と。一方、馮太后はとびきり権勢欲の強い人物だったのに、「高祖(孝文帝)の生まるるに及び、太后みずから親しく撫養す。この後、令(臨朝聽政)を罷め、政事を聴かず」とあるごとく、孝文帝の誕生と同時にキッパリ引退しているのは、いかにも不可解。つまり、両者の間には強い母一子の情が通っていたとみられるが、それはあくまで状況証拠。しかし当時の史書には、馮太后と孝文帝の関係を「母子」の語をもって表現しているものもあるらしい。 かりに孝文帝の実母を馮氏だとして、ではその父は誰か？ 川本氏は献文帝ではないかと推定し、根拠として遊牧

る、と。 前回述べたように、文成帝が死去したとき、馮氏は悲歎の極、火中に投げたというほど帝を熱愛。ところがレヴィレート婚の掟ゆえ義理の息子の妻とされたが、頼りない若い夫を愛するには至らない。しかし生まれた息子は別であり、孝文帝が5歳になると、献文帝に迫って退位さす。ところが夫の方には未練があって、馮氏が李奕という愛人をつくると、嫉妬にかられてこれを誅殺。怒った馮氏が今度は先帝たる夫を殺してしまった、というわけだろう。 では当時、馮氏と孝文帝を祖母一孫とする話がまかり通っていたのだろうか。実は周囲はすべて母一子とみていたのだが、「北魏には外戚の勢力の台頭をおさえるため、世継ぎとなる皇太子の生母に死を賜るという奇習があった」。馮氏はこの「旧例によって自身が死を賜ることを恐れた」(川本氏著237ページ)。むしろ、周囲が猛烈キャラの馮氏を恐れて、母一子たる関係を知りながら、祖母一孫説を信じたふりをしていたのでは？ そこで馮太后は自分の一族を厚遇できたというわけだ。ちなみに孝文帝は即位後、この奇習＝旧例を廃止している。



けれど、放射能に汚染された地域には生活はない。放置されたシイタケの原木や干し柿用の柿の実。それでも伸び放題の草を放置しておけないと草を刈る飯館村の人たち。1枚1枚が、貴重な記録だ。 『キノコの教え』(小川眞著 岩波新書 800円+税) 値段も重さも手頃で、通勤・通学の



**近畿の環境団体情報交流会**  
 ～東日本大震災を経験して、これからの持続可能な社会をどうつくるか～

- 日時：6月23日（土）13時～17時30分
- 場所：大阪市立生涯学習総合センター（大阪駅前第2ビル5階）
- 定員：80名
- 参加費：1,000円（学生500円）エコネット近畿会員は無料
- 基調講演「東日本大震災を経験して、これからの持続可能な社会をどうつくるか」太陽光発電技術研究組合理事長 桑野幸徳氏
- パネルディスカッション  
 【パネリスト】桑野幸徳氏（太陽光発電技術研究組合）／槌田劭氏（NPO法人使い捨て時代を考える会）／田浦健朗氏（NPO法人気候ネットワーク）／夏原由博（名古屋大学大学院環境研究科教授）  
 【コーディネーター】中津英治氏（NPO法人エコネット近畿）

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
 \*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 分科会  
 第1分科会「食と安全～いのちと食のあり方を考える～」  
 第2分科会「エネルギーの確保～市民・地域による自然エネルギー普及の可能性～」  
 第3分科会「里山の生態系～里山を資源として利用することが生物多様性を守る～」
- 主催・問合せ・申込み：NPO法人エコネット近畿まで。FAX. 06-6949-8288 E-mail: yoyaku@econetkinki.org
- 申込期限：6月18日（月）

**小夏とたまねぎ  
 いかがですか**

文旦でおなじみの田中農園より小夏とたまねぎのご案内です。旬の味をお楽しみください。  
 ◎小夏（低農薬・有機肥料）  
 A L M混 5kg 4,000円  
 B L M混 3kg 2,400円  
 ※出荷：5月20日まで。お急ぎを！

☆白たまねぎ（低農薬・有機肥料）  
 5kg 1,800円  
 ※出荷：5月初旬より  
 【注文先】  
 〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 田中農園 田中隆一さん (Tel/Fax 0887-29-2500 E-mail:tanakan@quolia.ne.jp)  
 ※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。

**編集後記**

事務局の河本公子です。今まで『緑の地球』の編集をしていた東川さんに替わって今回から編集を担当することになりました。事務所のみなさんにいろいろ迷惑をかけつつ、日々パソコン画面に向かって慣れない作業に悪戦苦闘しましたが、どうにか発行することができました。これからもどうぞよろしくお祈りします。